

第5章

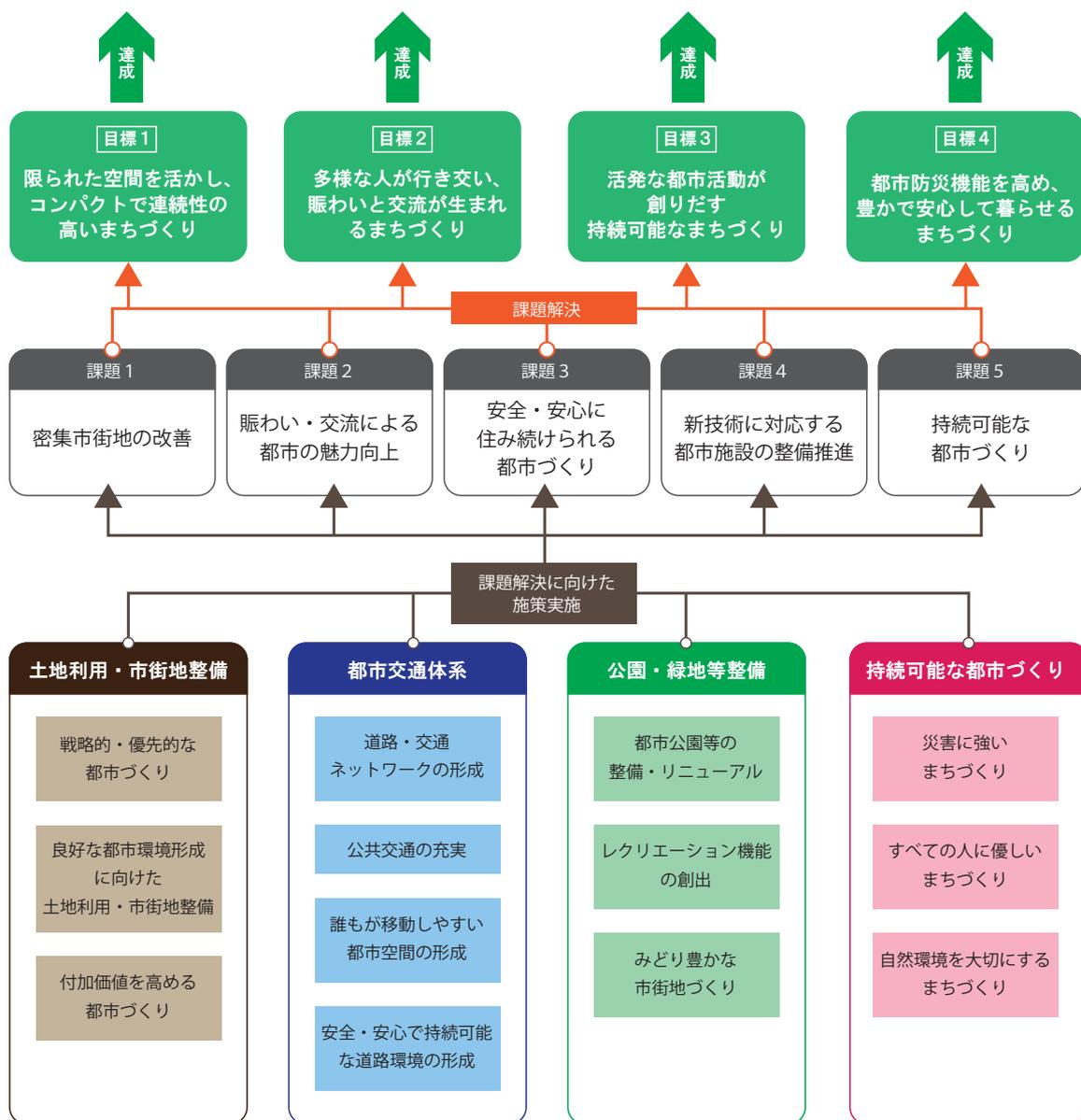
都市の発展の方向

③将来像実現に向けて

嘉手納町都市計画マスタープランを着実に推進し、各方針に基づく施策を実施します。施策の実施により、都市づくりの課題の解決を進め、都市づくりの目標を達成し、総合計画で示された嘉手納町全体の将来像「ひと、みらい輝く交流のまち かでな」を都市づくり・都市基盤整備の立場から後押しします。

ひと、みらい輝く交流のまち かでな

嘉手納町全体の将来像を都市づくり・都市基盤整備の立場から後押し



memo

これまでのワークショップを踏まえて、 若手職員が考えたわが町の「将来都市像」

2回目の町役場職員ワークショップでは、住民ワークショップを含めての集大成として、魅力・らしさを活かし、課題を解決しながら迎える20年後の「将来都市像」を3つのグループに分かれて作成しました。

共通点としては、嘉手納町役場や新町通りなどを含むロータリー周辺について、中心拠点という位置づけはそのままに、さらに生活を豊かにする機能の誘致や集約を目指すという点となっています。一方で、各グループの特徴として、Aグループでは海岸線のウォーターフロントとしてのにぎわいづくり、Bグループでは住宅地の拡充、Cグループでは交通軸の強化等の案が示されました。

この案をもとに、本計画では将来都市構造（P32）を位置づけています。

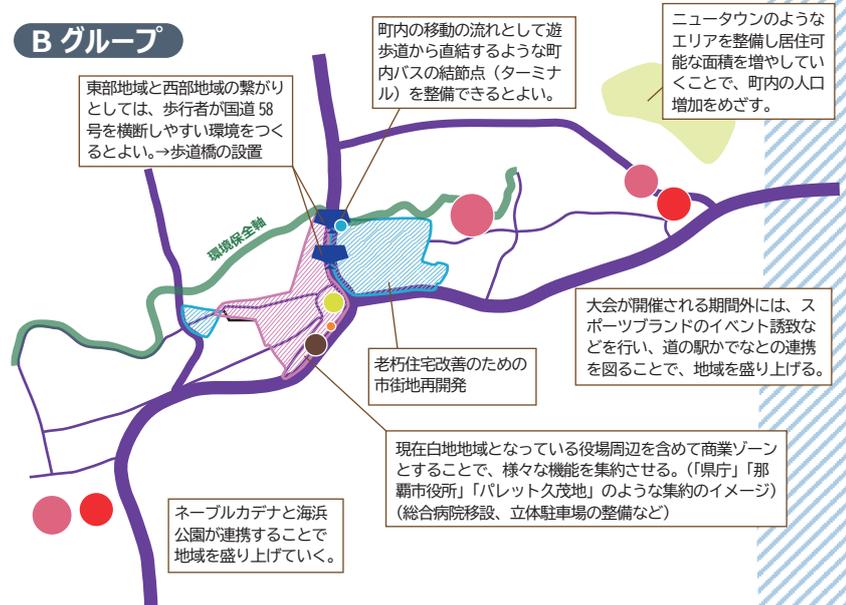
A グループ



A グループの特徴

- ・ウォーターフロントゾーン
- ・比謝川沿いの施設を繋ぐ歴史文化軸
- ・東西を繋ぐ交通軸の整備 など

B グループ



B グループの特徴

- ・老朽住宅改善の市街地再開発
- ・久得地域への住宅地整備
- ・中央公民館跡地への交通結節点の整備 など

C グループ



C グループの特徴

- ・老朽建物更新に合わせた商業施設の誘致
- ・朝夕の渋滞緩和のための交通軸の強化 など

【凡例】

● 行政・業務拠点	■ 道路
● 賑わい・交流創出拠点	■ 構想道路
● スポーツ・レクリエーション拠点	■ 環境保全軸
● 歴史文化拠点	■ 歴史文化軸
● 防災拠点	■ 商業ゾーン